

共立女子大学コレクション

# “遊びの道具”

平成23年2月8日(火)～3月18日(金)

休館日：日曜・祝祭日及び3月10日～12日



伊勢物語かるた  
江戸時代・18世紀

共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス 本館1階展示室  
〒101-8437東京都千代田区一ツ橋2-2-1 TEL03-3237-2425

交通 ・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車1b出口から徒歩3分  
・東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線  
「神保町」駅下車A8出口から徒歩1分

共立女子大学コレクション

# 遊びの道具

人の生活にとって「遊び・あそび」は欠かせないもののひとつです。それは睡眠や空気と同じように、あまりにも日常生活のなかに入り込みすぎていて、普段はその大切さを意識しないことが多いのではないのでしょうか。しかし過去においても現代においても、人が健全に生きていくうえで遊びを必要としていることは、われわれみんながすでに体験しているところでしょう。

今回の展示では、われわれ日本人が遊びに用いてきたさまざまな玩具や道具をご覧ください、遊びの楽しみと遊び道具の面白さを思い出していただきたいと思います。

## 主な展示品

かるた　　すごろく　　人形　　ままごと道具　　羽子板　　香道具　　雑道具

### (人形)

人形を愛玩するという行為は、人を愛し世話する行為の代替行為であり、特に親が子供に人形を与えるのは、子供にそういう優しい心を植え付けたいという思いから生まれるものでしょう。しかし子供にとっては人形に話しかけ、一緒に遊ぶことは楽しみの一つであり、大人のための人形が存在するのも、こうした行為が人の心を慰めるからでしょう。

### (かるた)

その名はポルトガル語で「手紙」「紙板状のもの」などを意味する carta に由来します。西洋ではタロットカードやトランプなどのカードゲーム一般を指しますが、日本では、一般的に、読み札にあわせた絵札をとってその枚数を競う競技を意味するようになりました。「歌がるた」とも呼ばれる百人一首では、読み札には短歌が書かれ、取り札には下の句が書かれています。

### (薫香)

梅檀(せんたん)・沈水(じんすい)・蘇合(そごう)・薫陸(くんろく)・鬱金(うこん)・青木(せいぼく)・白膠(はっこう)・零陵(れいりょう)・甘松(かんしょう)・鶏舌(けいぜつ)などの香のうち、数種をたき、その香の名をきき当てる遊びをいいます。

### (すごろく)

日本では「雙六」と書かれた盤双六(ばんすごろく)と、後世に生まれて単に「双六」と称した絵双六(えすごろく)の2種類がありました。両者は古くは峻別されていたようですが、江戸時代には「雙六」(盤双六)と「双六」(絵双六)が双方共に「双六」と称されていたため、混乱が生じたといわれています。盤双六は幕末以降廃れ、現在では、双六と言えば絵双六を指すようになりました。